

田代よいとこーその6ー田代に発電所があった！

かつて田代地区に2つの発電所（第一発電所、第二発電所）がありました。そのことをご存知の方はもう少なくなりつつあります。今回は紙面の都合もあり、第二発電所についてご紹介しましょう。

田代第二発電所

愛川電気株式会社の水力発電所として、大正11年4月3日運転開始、昭和39年に閉所されるまで、440kwの電気を発電していました。住所は田代字志田1350-2（馬渡）。急な崖を背負う中津川河川敷脇のわずかな平地にありました。

発電所は、外壁に煉瓦を使ったコンクリート造りの平屋建て約50坪で、高さ6.5m、内部にフランス水車、発電機が設置されていました（写真1）。隠川（おんがわ）から1090mの導水路で水を引き、14mの落差で水を落とし、発電しました。家庭の電灯だけでなく、水車に頼っていた燃糸業への動力供給の役割を担っていました。

発電所には対岸から人が渡るための吊り橋（写真2）が掛かっていました。また、昭和12年の水害によって、3棟あった社宅（写真3）が壊滅し、上田代に移転しました（現在はありません）。

運転していた当時は、所長1名、職員7名の計8名が勤務していました。2人体制で昼夜3交代でしたが、出力1000kw未満の発電所は全部廃止するという方針のもと、昭和39年に閉所しました。それに伴って吊り橋も外され、訪れる人もなくなりました。

今でも冬には、対岸から枯れた樹幹越しに遺構を見ることができます。

社宅で生まれた松野恒雄さんのお話

子どもの頃は、どこの家でも炊事や風呂に燃料として薪（燃し木）を使っていたのですが、私は山へ薪を拾いに行ったことがありません。それというのも家（発電所の社宅）では、電気を調理や風呂に使っていたからです。社宅でラジオも聴けました。音楽好きになったのもそのせいでしょうね。

中津川水系の発電所

中津川水系には、上流に宮ヶ瀬発電所がありました。これは、相武電力株式会社が大正15年11月に運転を開始したもので、その後日本電力株式会社、日本発送電株式会社を経て、東京電力株式会社が経営するところとなりましたが、ダム建設に伴い、平成6年6月、運転開始後68年でその歴史を閉じました。発電出力4000kw、職員は17～18名でした。

ちなみに田代では、第一発電所が大正4年に運転を開始しています。田代地区は愛川町でも最も早く電灯の恩恵に浴した地区と言えます。

参考文献

『愛川町の近代遺産』（愛川町文化財調査報告書第22集 2001年愛川町教育委員会）

『宮ヶ瀬発電所68年の歴史をとじて』東京電力神奈川支店

取材協力

松野恒雄さん、山口秀雄さん

次号予告～「幻の相武電車」～

今からなんと90年前に、相模原から相模川を鉄橋で渡し、愛甲郡と厚木市へ鉄道を敷こうという計画がありました。もし実現していたら……。何とも夢のある話です。

この相武電車についてなにか情報をお持ちの方は、教頭までお知らせください。その他こんな話題をとりあげてみたら？というご意見がございましたらお寄せください。

